



リトル☆レイン豆A3

七田香



リトルプレス小豆A2

茜町春彦

目次：

- 英訳昔話「やろか水」
- 仮説エッセイ「上代特殊仮名遣」
- 今来靈異記「竜巻の事」
- 和文英訳「和漢洋の堕落風俗」
- イラストレーション「泉」

序

英訳昔話「やろか水」：

柳田国男著『日本の昔話』の中の一編です。

木曽川に関する昔話を3枚のイラストレーションにしました。英訳も行いました。

仮説エッセイ「上代特殊仮名遣を疑う」：

万葉仮名の「きけこそとのひへみめもよろ」には、甲乙2種類の発音が存在すると言います。

本当に存在しているのでしょうか？疑問です。

今来靈異記「竜巻の事」：

現代の出来事を基に、昔風の絵物語を創作しました。

和文英訳「和漢洋の堕落風俗」：

夢野久作の文章を翻訳しました。

イラストレーション「泉」：

Jean-Auguste Dominique Ingresの油彩画の模写です。



英訳昔話「やろか水」

絵・文・訳：茜町春彦

原作：柳田国男

概要：

絵本です。原作は日本の昔話（新潮文庫）の中の一編です。

日本の昔話：

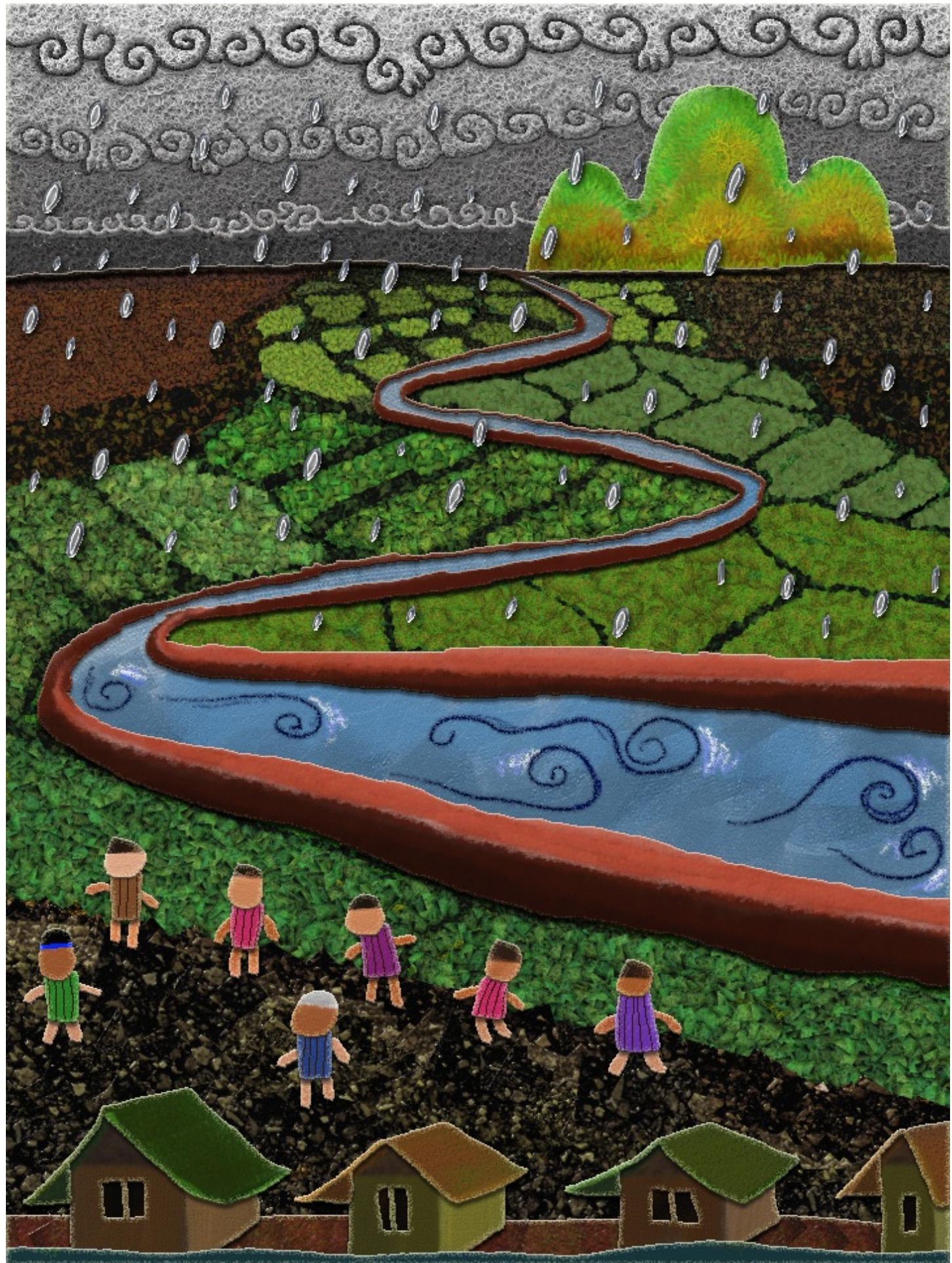
著者は柳田国男（1962年没）です。柳田国男氏自身が述べているように『日本の昔話』は全国から集めた話なので、創作性の観点から著作権は元々発生していないと思いますが、仮に著作権が発生していたとしても柳田国男氏の没後50年を経過していますので既に消滅しています。（著作権：消滅）

訂正：

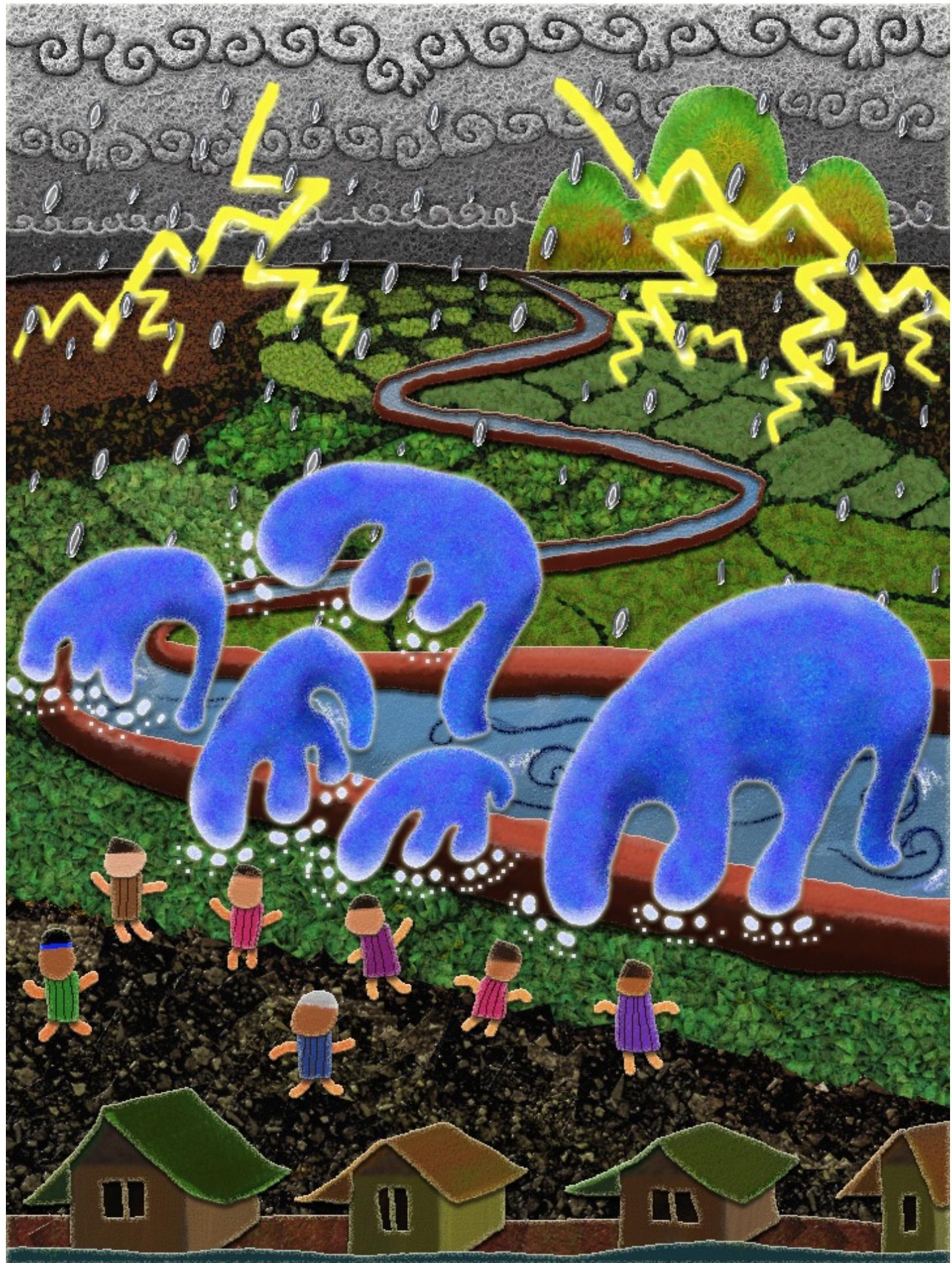
英訳文に於いて、貞享4年の西暦表記を次のように訂正しました。（2014年6月30日、茜町記す）

（正）Some people say this occurred in AD 1687 (approximately 250 years ago).

（誤）Some people say this occurred in AD 1867 (approximately 250 years ago).







「やろか水」日本語文

むかし、尾張の井堀という村で、秋のなかばに毎日雨ばかり降って、木曽川の水が段々に高くなり、堤が切れるかも知れないと心配して、村の人たちが起きて水番をしていることがありました。

或る晩の真夜中頃に、川の向かいの美濃の伊木山の下の淵あたりから、頻りにやろうかあ、やろうかあと呼ぶ声がしました。

一同は唯不思議に思うばかりで、どうすることも出来ずに顔を見合わせていましたが、いつ迄もそのやろうかあという声が止まないので、しまいには恐ろしくなって人夫の中の一人が、思わず知らず高い声で、いこさばいこせえと言ってしまいました。

そうすると忽ち大水がどっと押し寄せて、見ているうちにこの辺の田が全部、水の下になったということあります。

それで今でもその時の洪水を、やろか水と言っています。

今から250年ほど前の、貞享4年の事だという人がありますが、この大川の附近には、他にもそういう話が村々にあるそうです。

(尾張丹羽郡)

A Japanese folk tale "SHALL-I-GIVE water"

Long long ago, the Kiso river rose gradually because it continued to rain in the middle of autumn.

In Ibori village of Owari province, the village people were afraid that the banks of the river might break. And so, they were watching the river every day.

In the midnight of a day, they could hear someone calling from around the deep water at the foot of Mt. Ikayama of Mino province on the other side of the river.

"Shall I give it to you? Shall I give it to you? ..."

All the village people were merely wondering at the voice. And they could not do anything and were looking at each other. The voice never stopped.

At last, one of laborers got to feel fear. And he answered unconsciously in a high tone "Give it to us if you can!"

Then, a severe flood suddenly hit all the rice fields in every side.

So, even now, this flood is called as " SHALL-I-GIVE water".

Some people say this occurred in 1687 (about 250 years ago). And also, people say similar traditions are known in villages near this big river.

(Owari province Niwa county)



仮説エッセイ 「上代特殊仮名遣を疑う」

著者：茜町春彦

概要：

上代特殊仮名遣は間違いである、と仮定すると何が言えるのか、考えてみました。

仮説エッセイ 「上代特殊仮名遣を疑う」

万葉集・古事記・日本書紀に関する現在の解説書では、「上代特殊仮名遣」と称する理論が前提となっています。万葉仮名の「きけこそとのひみめもろよ」には、甲乙2種類の発音があり、甲種に分類される仮名と乙種に分類される仮名の間では交換不能であると主張する理論です。

甲乙の区別は、本当にあるのでしょうか？

あると言うのならば、どの様なデータをどの様に解析したのでしょうか？

万葉仮名に甲乙の区別があるのならば、万葉仮名が変化してできた平仮名・片仮名には、なぜ甲乙の区別がないのでしょうか？

区別が急に消えたとしたら、「最近の若い奴らは、来と木の区別も出来ないし、日と火の区別も出来ない、全くケシカラン！」と云うような言葉が残っていそうですが、ありません。

甲乙の区別があったとしても、全部が突如として消えてしまうものでしょうか？一つや二つ、現代まで残り続けていてもよいのではないのでしょうか？

「上代特殊仮名遣」に疑惑を持っておりますが、否定する根拠を持っておりませんので、取りあえず仮説として「上代特殊仮名遣」は存在しないと仮定して見たいと思います。この仮説に基づいて、枕詞「飛鳥」を考察してみます。例として、枕詞「飛鳥」が詠み込まれている万葉集歌を2つ示します。

- 78 飛鳥明日香能里乎置而伊奈婆君之当者不所見香聞安良武
- 196 飛鳥明日香乃河之上瀬石橋渡下瀬打橋渡・・・（後半は省略します）

私案ですが、この歌の読み下し文をつぎに示します（参考文献も利用しました）。

- 78 ひとり、明日香の里を置きて去なば君のあたりは見えずかもあらむ
- 196 ひとり、明日香の河の上瀬で石橋を渡り下瀬で打橋を渡る・・・

甲乙を無視すると、「飛鳥」を「ひとり」と訓じて「一人」の意味に解釈可能です。

ただし「上代特殊仮名遣」を適用するならば、「ひとり（一人）」は「比等里」などと書く事になっていて、甲種の「比」と乙種の「飛」は交換不能と云う事になるので、「飛鳥」を「ひとり（一人）」と解釈できません。

しかし、逆に言うと、「飛鳥」を「ひとり（一人）」と訓じて意味が通るのだから、元々「比」と「飛」は交換可能であったのではないか？

繰り返しになりますが、「上代特殊仮名遣」は、どの様なデータをどの様に解析して導いたのでしょうか？

無いもの在ると誤認してはいないでしょうか？

上述したことは、単なる仮説ですが、別途機会を見つけて更に解析を行なってみたいと思っております。



今来靈異記「竜巻の事」

絵・文：茜町春彦

概要：

現代の出来事を基に、昔風の絵物語を創作しました。

竜巻の事、絵



竜巻の事、文

オレンジネズミとグリーンコウモリ、TVゲーム機を使って遊ぶため家に居りし時、空に雷雲が集まり来たりて、辺りは暗くなりけり。

風雨、真横より吹き始めたり。

10分が過ぎたる頃、轟音が鳴り響き亘るなり。

オレンジネズミは驚きて家の奥へ隠れたる間、グリーンコウモリは窓に近づきて開け放つや、10秒の後、烈風渦巻き乍ら、怒涛の如く襲い来たりて、忽ちにして窓壁屋根諸共、吹き飛ばさるるなり。

グリーンコウモリ、空遠く何処かへ消え去りぬ。

オレンジネズミ、柱に抱き付いたりて、無事なり。

(了)



和文英訳「和漢洋の墮落風俗」

訳：茜町春彦

原著者：夢野久作（1936年没）

概要：

関東大震災後の東京で夢野久作が取材した「東京人の墮落時代」の中の一記事を英訳しました。

原本は「夢野久作全集2（ちくま文庫、169頁～170頁）」です。

Translation

"Japanese, Chinese and Western styles in decadent public morals"

Tokyo natives are now making a gross decadence age. In point of Japanese, Chinese and Western styles, everything is degenerating, decaying and decomposing.

An influence is spreading over the whole land of Japan. Even if this is considered to be transient, the influence will probably remain for long time.

The present Japanese worship "Tokyo" thoughtlessly. Tokyo must be the best place for everything. People consider that Tokyo style is newest and best for everything. In this view point, the decadence of Tokyo natives will become the decadence of Japanese. If you think it to be one thousand miles away, your thought is old.

How long will this phenomenon go on? When will the economy principle of Prime Minister Hamaguchi stop this? This question will be resolved in March or April of this year at the earliest. Because it is the blossom season of every year, (especially, the blossom season of the last year was epoch-making for the popularity of Tokyo.) But, if the present influence continues, the decadent tendency of Tokyo natives cannot stop instantly. On the contrary, it stops at this blossom season and the golden age might come. Or, the second age might come with hardness. Anyway, this spring is the turning point. I hope this article will be a criterion for distinguishing the change of such popularities and public morals.

Moreover, if it is useful for people who have forgotten the beauty and the dignity for the local features and consider Tokyo as a god, or if it is useful for people who send their children to Tokyo, how I will be rewarded for my efforts!



イラストレーション「泉」

制作：茜町春彦

原作者：アングル

概要：

Jean-Auguste Dominique Ingres(1867年没)の油彩画「泉」の模写です。

イラストレーション（模写）



後書き

改訂2版について：

英訳文を修正しました。

また、漢文調の日本語文を削除して原文に差し替えました。

参考文献：

次の文献を参考にしました。

- 日本の昔話：平成17年10月25日36刷 柳田国男著 新潮文庫
- 漢文法基礎 本当にわかる漢文入門：2010年12月13日第4刷発行 加地伸行著 講談社学術文庫
- ジーニアス英和辞典〈改訂版〉2色刷り:1994年4月1日改訂版初版発行 株式会社大修館書店
- 新コンサイス和英辞典〈革装〉第3刷：昭和50年9月15日第1刷発行 株式会社三省堂
- 実例英文法〈第4版〉：昭和63年6月第1刷発行 AJ.トムソン・AV.マーティネット共著 江川泰一郎訳 オックスフォード大学出版局
- Longman Dictionary of American English:First printing 1983 Longman Inc.
- 古代国語の音韻に就いて 他二篇：2011年11月10日第32刷発行 橋本進吉著 岩波文庫
- レトリックのすすめ：2009年9月1日初版第2刷 野内良三著 株式会社大修館書店
- 新選万葉集抄新装版：平成25年1月30日新装版第2刷発行 小野寛著 有限会社笠間書院
- 古事記：2012年11月5日第82刷発行 倉野憲司校注 岩波文庫
- 日本書紀（二）：2013年4月15日第20刷発行 坂本太郎・家永三郎・井上光貞・大野晋校注、岩波文庫
- 日本の歴史04平城京と木簡の世紀：2009年12月1日第3刷発行 渡辺晃宏著 講談社学術文庫
- 夢野久作全集2：1992年6月22日第1刷発行 夢野久作著 ちくま文庫
- 巨匠に教わる絵画の見かた：1996年10月15日第1版発行 視覚デザイン研究所編 株式会社 視覚デザイン研究所

CG画像：

次の画像処理ソフトウェアを使用しました。

- ArtRage 3 Studio Pro アンビエント社
- Photoshop Elements 10 アドビシステムズ株式会社

著者：

茜町春彦（あかねまちはるひこ）と申します。

2004年より活動を始めたフリーランスのライター＆イラストレーターです。

作品が社会の進歩に多少なりとも寄与することを願いながら、日々制作を行なっています。

その他：

製品名等はメーカー等の登録商標等です。

本書は著作権法により保護されています。

2013年10月2日発行

2014年6月30日改訂

2018年3月31日改訂2版

リトルプレス小豆A3

<http://p.booklog.jp/book/77480>

著者：茜町春彦

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/akaneharu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/77480>

ブクログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/77480>

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブクログ